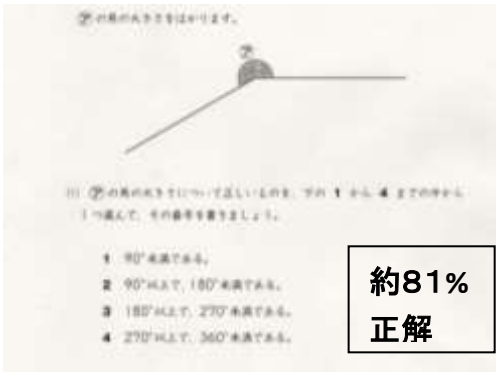
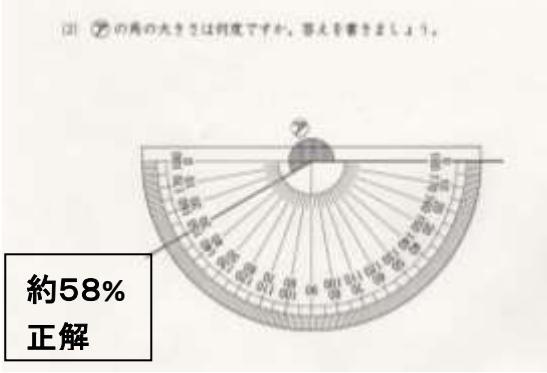
（２）多様性に応じた授業づくり

（a）子どもたちの多様な学び方



約81%
正解



約58%
正解

参考：国立教育政策研究所（平成 27 年度）「全国学力・学習状況調査　報告書」

上記の問題では、角の大きさの見当を付けることができていますが、分度器を用いて、角の大きさを正確に測ることについては、**学級の半数近くが理解できていない状況**が推察されます。授業中に、友達の答えを写して分かったと思っている子、意味を理解しないままに数字をただ書いている子等、様々な子どもの姿があるのではないでしょうか。

【子どもたちの学び方をご存知ですか？】

教科書や黒板、手本を**見て分かった子**

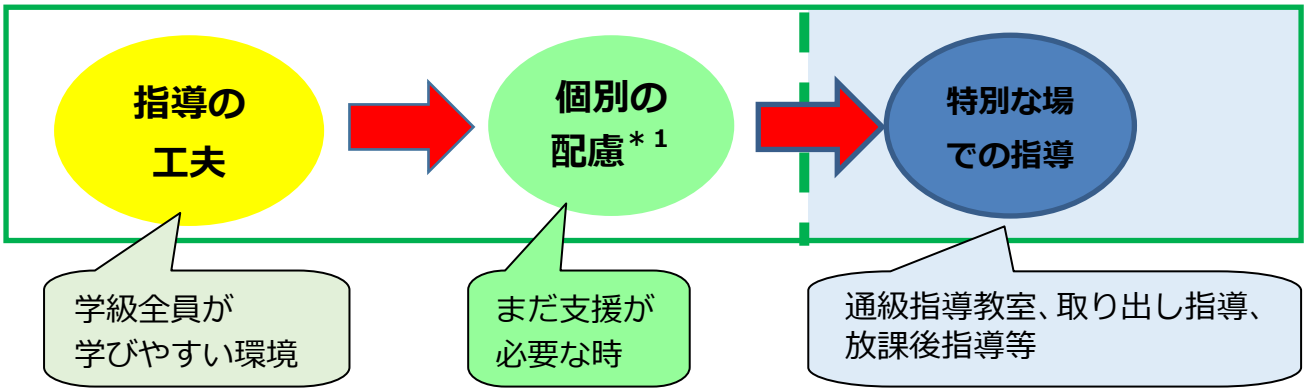
教師の説明、手順を詳しく**聞いて分かった子**

とりあえずやってみて、**経験から分かった子**

「子どもたちがどのように学んでいるか」に向き合う必要があります。

（ｂ）多様性に応じた授業づくり

子どもたちの多様な学び方に応じるためには、次のような考えが重要になります。



＊１：詳しい個別の配慮は『Ⅲ気になる児童生徒の支援や指導の充実のために』に掲載します。

（ｃ）すべての児童生徒が学びやすい授業づくり

すべての児童生徒が学びやすい授業づくりには、次のような視点があります。

例

① 学びやすい環境

□ 学ぶ土台となる教室環境を整えることで、子どもたちは集中して学習に取り組むことができます。

② 学びのルールが明確な授業

□ 授業中のルールを明確にし、徹底することで、子どもたちは安心して学習に取り組むことができます。

③ 学ぶ内容の明確な授業

□ 学ぶ内容を明確にし、目的意識をもてるように仕掛けることで、子どもたちは学習を追究しようとする意欲をもつことができます。

④　学び方が選べる授業

□ 自分の得意な学び方（見て学ぶ・聞いて学ぶ・体験して学ぶ等）を選択できるようにすることで、子どもたちは学ぶ内容をより深く理解することができます。

⑤　子どもたちが学び合える授業

□ 授業の展開に応じて話し合いの場を設けることで、子どもたちは自身の力で学びを広く、深くすることができます。

支援や配慮が必要な児童生徒を意識して取り組んだ学級全体への工夫が、
結果として全体の学びを深めることにつながります！

＊　詳しくは☆『多様性を認め合う学級・授業づくりのためのコーディネートアイディア（例）』にアイディア、実践例等があります。

気をつけたいのは、「授業の手法」だけにとらわれないことです。
大切なのは、授業中の子どもたちの「学ぶ姿」をしっかり見つめ、振り返りながら授業を考えていくことです。

教師が教える授業から、子どもが学ぶ授業へ